



サクラ満開 生を実感

函館 ホスピス病棟の患者花見

函館市の場町の函館おし 者が2日、市内で盛りを迎え、
 ま病院のホスピス病棟の患 えているサクラの花見を楽

しんだ。家族や医療スタッフ、ボランティアに付き添われ、陽光の中で咲き誇る花に笑顔を見せた。

春の恒例行事で、患者8人が介護タクシーを利用して桜ヶ丘通りなど桜の名所を訪問。杉並町の遺愛学院では車から降り、車いすやストレッチャーに乗ってサクラを見て回った。

2月から入院中の大田民蔵さん(73)＝亀田港町＝は同学院で「どのサクラにもそれぞれ良さがある」と穏

さまざまな種類の桜が咲く遺愛学院で花をめでる患者や家族、医療スタッフら(西村昌晃撮影)

やかに花を見上げ、花びらが舞う中で妻春江さん(72)、長女夏子さん(48)と記念撮影。春江さんは「入院後の治療のおかげで状態が回復し、安定しています。花見に来ることができるとは」としみじみ語った。

同病院の佐々木聡医師(43)は「屋外へ出て季節を感じることで院内とは違う会話もできる。丁寧なサポートが必要だが、患者には大切な機会」と話していた。

同病院は、院内ボランティアの応募予定者を対象にした講習会を6月13日午後1時50分から院内で開く。

ホスピスの理念や緩和ケアについて福徳雅章院長らが解説する。受講無料で定員は先着20人程度。所定の用紙で5月31日までに申し込む。詳細は同病院企画室 ☎01388・56・2308へ。

(中川大介)